

# 石川県海洋漁業科学館中期経営目標

## (実施期間 平成24年度～平成26年度)

平成24年3月 策定

### 1 施設の設置目的

本施設は子供から大人までを対象として、本県の海洋及び水産資源に関する知識を普及し、県内水産業の振興に寄与することを目的に、水産総合センターの附属施設として設置されています。

### 2 施設の果たすべき役割

本施設は、映像やクイズなどで楽しみながら学べる展示物や、海に由来する素材を利用した工作教室の開催により、海の生き物や漁業の大切さへの理解を深める機会を提供することを役割としています。

### 3 事業内容

#### (1) 展示活動

- ・ 日本海のコーナー：立体グラフィックにより日本海の構造を解説しています。
- ・ 魚の生物学コーナー：アクリル樹脂封入処理した実物標本や模型等により、魚の成長や年齢、魚のからだや泳ぎ方、泳ぐ早さについて学べます。
- ・ 漁業コーナー：映像によって学ぶ石川県の各種漁法や定置網の構造、資源管理ゲーム、パソコン操作で学ぶお魚Q&Aなど、楽しみながら水産業の知識を深めてもらいます。
- ・ オーシャンシアター：タイムマシンに乗って未来からやってきた海賊ノット船長と、機関士スコンバーの二人のキャラクターが能登の海を旅することで、新鮮な目で見た現代の石川県の海と漁業を映像で解説しています。放映時間：23分間。

#### (2) 工作教室開催

- ・ 本物のスルメイカでとっくりを作る「イカとっくり」をはじめ、海藻おしばで作る「海藻しおり」や貝殻を使った「壁掛け」など、海に由来する素材を使った30分間程度でできる無料の工作教室を開催しています。

## 4 現状と課題

### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)の向上について

- ・「能登の海藻のいろいろ」などの展示物追加による展示内容の充実や工作教室の常時開催、制作メニューの拡充など、展示・体験内容の工夫を行ってきたものの、入館者は年々減少しており、平成22年度は5千人を切る状況にあります。
- ・このため、「もっと体験しながら学べるものがあるとよい」「生きた魚がいたら楽しい」などの利用者アンケートの意見を踏まえ、水産総合センターが持つ生産機能を活用し、サケつかみ取りやヒラメ稚魚の展示など、新たなイベントを試験的に実施したところであり、こうした水産総合センターとの連携や地域資源の活用などによる新たな体験プログラムの開発を進め、魅力アップを図る必要があります。
- ・PR活動については、奥能登地域の小学校や保育園、近隣の公共宿泊施設や商店街等へのチラシ配布を行ってきましたが、利用拡大を図るため、「能登少年自然の家」など近隣の宿泊施設を利用する金沢市の小学校のほか県内外の旅行者へもPRするとともに、ホームページの情報量の充実などにより、取り組みを強化していく必要があります。

### (2) 施設運営の効率化

- ・これまで節電・節水等により、施設管理費の節減に努めてきたところですが、こうした取り組みをこれまで以上に強化していく必要があります。

## 5 中期経営目標

### (1) 中期経営目標

- ① 入館者を3年間で10%増加させます。
- ② 利用者アンケートによる満足度は、引き続き90%以上を維持します。
- ③ 利用者1人当たりの一般財源投入額を3年間で10%削減します。

### (2) 測定指標と目標値

測定指標	実績値※	目標値(H26)
① 入館者数	5,402人	6,000人
② 利用者アンケートによる満足度	92%	90%以上
③ 利用者1人あたりの一般財源投入額	710円	640円

※①はH20～22平均。②はH23。③は一般財源(H20～22平均)/利用者(H20～22平均)とした。

## 6 目標達成に向けた具体的な取組内容

### (1) 体験内容の充実等による満足度の向上

#### ① 水産総合センターとの連携強化

- ・水産総合センターの各事業所が持つ生産機能を活用し、ヒラメ稚魚、サケやサザエの生態観察や、アユつかみ取り、ホンモロコ釣りなど、親子で楽しみながら海や川の魚の生きた知識が学べる体験プログラムを提供します。
- ・水産総合センター内を当館職員が案内し、最新の研究情報を紹介する見学プログラムを新たに提供します。

#### ② 地域資源を活用した体験プログラムの開発・提供

- ・「いしる」など地元の伝統食品の加工工場や、ブリなどが並ぶ市場、海洋深層水活用施設の見学など、地域資源を活用した体験プログラムを開発し提供します。

#### ③ 情報提供の充実

- ・特色ある漁法や水産資源など、展示内容に関連した情報についてより深く紹介する冊子を作成し、来館者に提供します。

#### ④ 利用者アンケートを基にした魅力アップ策の実施

- ・利用者の意見を施設の魅力アップや満足度向上につなげるため、利用者アンケートを継続し、新たな体験プログラムの提供やサービスの向上に努めます。

### (2) 学校との連携、情報発信・PRの強化による利用の促進

#### ① 学校との連携強化

- ・近隣の宿泊施設を利用している金沢方面の小中学校などに、「能登少年自然の家」と連携して、「イカとっくり作り」など施設の特徴を生かした体験をうまく組み合わせた利用を働きかけます。

#### ② 情報発信・PRの強化

- ・サケのつかみ取りや鱸からの年齢推定、サザエの産卵観察や受精実験などの体験プログラムは、親子が楽しみながら学べる機会として、「いしかわ自然学校」のパンフレットやホームページでも情報提供します。
- ・より多くの方々に来館してもらえるよう「道の駅」などにチラシを置くとともに、ホームページについては更新頻度を高め、各種体験教室の様態を紹介するなど、内容の充実に努めます。

### (3)施設運営の効率化

- ・引き続き節電・節水等の経費節減により、効率的な施設運営に努めます。

## 参考資料

### 1 施設の利用状況

#### (1) 利用指標(利用人数、稼働率などの状況)

指標	H20	H21	H22
利用者数 計	5,638	5,780	4,789
うち有料利用者	2,292	2,374	2,047
工作教室利用者数	2,025	1,820	1,381
利用団体数	38	37	25

### 2 収支の状況

(単位:千円)

		H20決算	H21決算	H22決算	H23予算
歳出	職員費	3,611	3,519	3,527	4,827
	施設管理費※	4,111	4,008	4,589	3,518
	工作教室開催費	39	34	22	0
	計	7,761	7,561	8,138	8,345
歳入	入館料	436	458	395	400
	国庫補助金	0	0	0	0
	一般財源	7,325	7,103	7,743	7,945
	計	7,761	7,561	8,138	8,345

※ 施設管理費の一部(警備委託料や光熱水費)は、水産総合センターと区分できないため、過去に調べた比率で案分した額としています。

### 3 利用者1人あたりの一般財源投入額

	H20	H21	H22	H20~22
一般財源投入額 ①	7,325 千円	7,103 千円	7,743 千円	7,390 千円
職員費を除いた額 ①'	3,714 千円	3,584 千円	4,216 千円	3,838 千円
利用者数 ②	5,638 人	5,780 人	4,789 人	5,402 人
利用者1人あたりの 一般財源投入額 ①÷②	1,299 円	1,229 円	1,617 円	1,368 円
職員費を除いた額 ①' ÷②	659 円	620 円	880 円	710 円

※職員費については、県全体で削減することとしています。

(知事部局で、平成23~27年度の5年間で150人程度の減)